

受賞技術特集によせて

パナソニック ホールディングス（株）執行役員
グループ・チーフ・テクノロジー・オフィサー 薬事担当
コーポレートイノベーション・ベンチャー戦略担当 **小川 立夫**



当社は、創業以来、経営理念に込められた「事業を通じて、世界の人々の生活をより豊かで、より幸福なものにする」という考え方を、あらゆる行動の根幹に置いて、多くの優れた商品を世の中に送り出すことで発展してきました。家電から始まり、時代に合わせて事業の姿を変えてきましたが、創業時から大切にしているのが、人々の「暮らし」への想いです。そこでは長きにわたり、「社会生活の改善と向上」と「世界文化の進展」に寄与することを社会に対してお約束してまいりました。そして、時代が経過し社会が進展してきた現在に至るまで、この理念を、不変のグループとしての存在意義として継承し、様々な領域で、便利で安心、快適なくらしをグローバルにお届けすることで、世の発展に貢献することを目指しています。

世界は大量生産・大量消費の時代から、急速なデジタル化によってビジネスの形が大きく様変わりしている中、イノベーションの創出に向けて、企業を超えて、社会やビジネスパートナーとの共創・協創が求められています。当社がハブとなり、時にはパートナーとなり、今までの枠組みを超えて社外のパートナーを巻き込み、つながることが重要です。このような状況でお客様からパナソニックをパートナーとして選んでいただくために、また、当社の技術がもっと輝くために、将来のくらしや社会の課題に真摯に向き合い、当社の研究開発・新規事業創出のチャレンジを後押しする環境づくりが大切だと思います。私たちが誇りにしている Panasonic という"ブランド"をお客様や社会から共感・支持されるブランドとするべく、たゆまぬ努力が求められています。

さらに、当社は2022年4月1日から事業会社制への移行により、それぞれの事業領域で専門性を高め、お客様へのお役立ちを追求する「自主責任経営」において、各事業会社をひとつのグループとしてつなぐ形となります。グループの商品とブランドを支える大きな原動力になるのが「技術力」であり、グループの価値ある資産として事業競争力の源泉となります。解決すべき世の中の課題をより明確にし、スピードを上げてお客様に対して、自らの価値創出力や、研究開発ならびに新規事業創出のオペレーション力を日々磨き上げながら、「技術力」の強化

に取り組んでまいりたいと考えております。

このような中、当社は、外部の権威ある機関や団体から高い評価を頂き、幅広い分野で数多くの賞を受賞することができました。社外から表彰を頂くということは、私たちの想いを形にして、当社が長年培ってきた技術が世の中に評価されたという証であり、大変光栄に思います。モノづくりを行う企業として、日々の研究開発がどれだけ「社会やお客様のお役に立つ価値」を生み出すことができたかを測るものさしにもなり、大きな励みになります。

本号では、受賞技術特集として、旭日小綬章を受章した大嶋光昭氏の特別寄稿に始まり、2019年から2021年にかけて当社が受賞した技術関連の賞の中から、優れた技術をご紹介します。10件の技術論文と3件の技術解説を掲載させていただいております。受賞技術に目を向けますと、ICT社会を支える新規バリスタの開発で文部科学大臣表彰（科学技術賞）を受賞した「積層バリスタの高周波/高速信号対応と卑金属化」、業界に先駆けて金属系パワーチョークコイル（インダクタ）の事業化を実現し市村産業賞（功績賞）を受賞した「自動車の進化を支える金属系パワーインダクタの開発と実用化」など、デバイス分野をはじめ、それ以外の分野も含めて多岐にわたり、それぞれが高い技術レベルをもっています。これらは、自分野における最先端技術の追究とともに、高い目標を掲げ、潮流に流されない探究心を持ち続けて、社会のため、お客様のためにどういう形でお役立ちすれば役割を果たしたことになるのかという気持ちを忘れずに、強い意志で互いに協力して努力を続けてきたからこそ受賞に結びついたものだと思います。改めて当社の技術レベルの高さと幅広さを実感した次第です。皆様にも是非ご一読いただければ幸いに存じます。

最後に、当社の新たなブランドスローガン「幸せの、チカラに。」を通して、お客様がお求めになるそれぞれの「幸せ」に、社員一人ひとりが担当する事業やその活動を通じて「チカラ」になっていくために、グループ一丸となって、お客様のご意見やご要望に真摯に耳を傾け、常にお客様の立場に立ち、期待を大きく超える「お役立ち」を、技術を通して提供するべく取り組んでまいります。